

グローバル生、学校行事も部活動も頑張っています。

■ 学校行事



2022 学園祭



2022 体育大会

■ 生徒実績

グローバルクラス生の活躍

- ▶ 韓国語スピーチコンテスト 銅賞
- ▶ 第17回公文国際模擬国連大会 ベストスピーチ賞
- ▶ JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021 NPO法人京都海外協力協会賞 佳作
- ▶ NHK短歌 6月第1週(テレビ放送、雑誌掲載) 入選「鞆には 九十二点の テストあり 嬉しく道の 石に踏く」
- ▶ 毎日新聞 みんなの広場日曜版 掲載 「留学で出会った新しい私」
- ▶ 第8回 清泉模擬国連大会 優秀賞 2名
- ▶ 京都私学振興会 文化スポーツ活動賞 など

■ 部活動

GSJ部：10名／韓国言語文化部：6名／スキー部：3名／女子バスケットボール部：2名／ホッケー部：2名
サッカー部／卓球部／軽音楽部／美術部／マルチメディア部／競技かるた部／ハレジャ部／写真部／演劇同好会

※すでに引退している生徒も含まれます。

■ 総合型選抜入試や推薦入試など

総合型選抜入試や推薦入試において、本クラスでの活動が評価を受けると考えられる大学入試の例

- 国際教養大学(公立)
 - グローバルワークショップ入試
- 立命館大学 国際関係学部
 - 国際関係学専攻講義選抜方式
- 関西学院大学 全学部
 - グローバル入学試験
- 上智大学 全学部
 - 推薦入学試験(公募制)
- 明治大学 政治経済学部
 - グローバル型特別入学試験

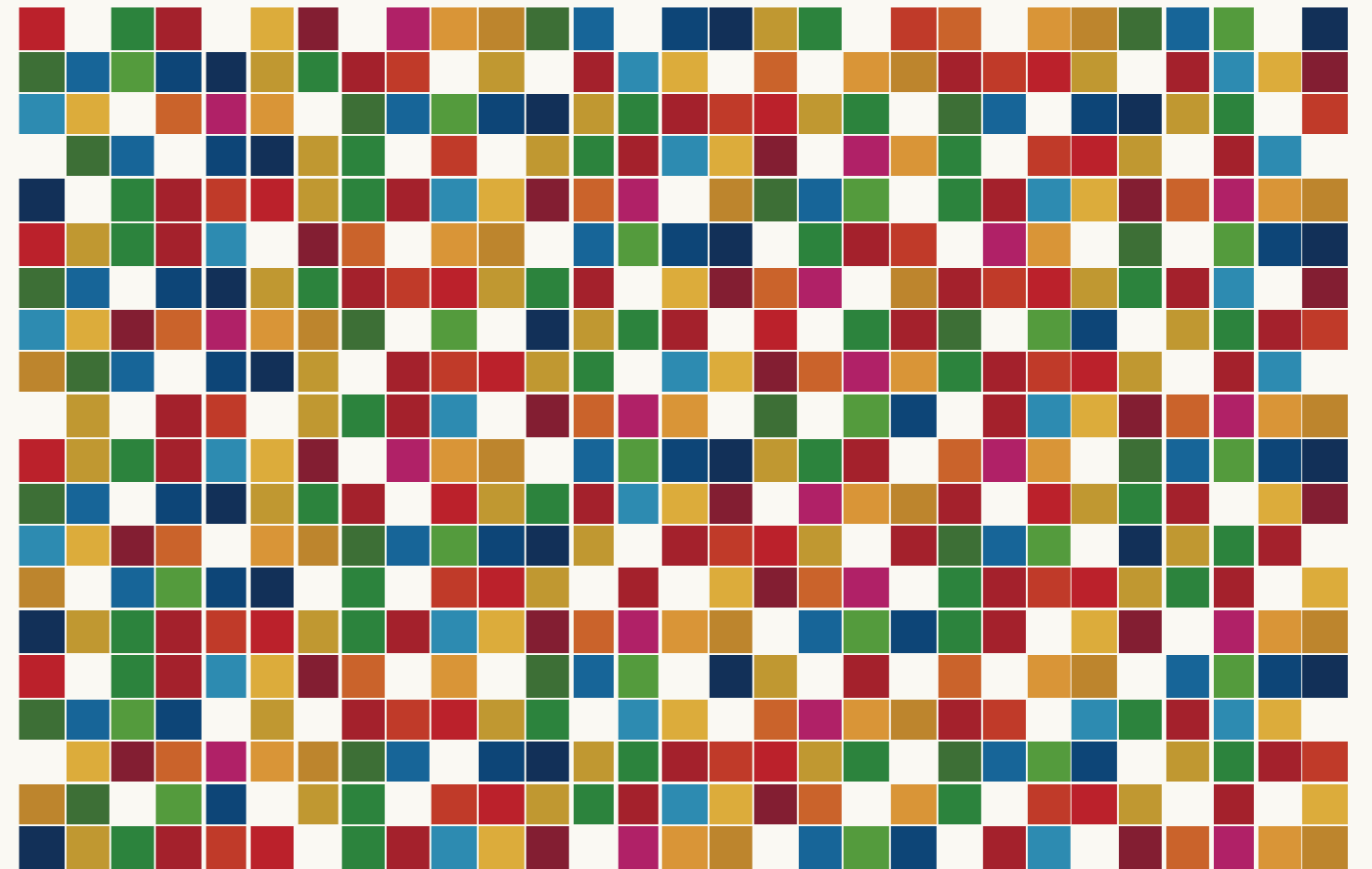
納付金

留学費用(2回分) 約1,400,000円
グローバルクラスのみ。留学費用は、積立です。
◎燃油サーチャージ料や為替の影響により変動します。

以下、他コース・クラスと同様です。

入学手続料 140,000円
校費(年額)
・授業料 552,000円
・教育費 120,000円
・施設設備費 60,000円
・保護者会・後援会・生徒会費 36,000円
・雑費(外部模擬テスト代など) 3~50,000円程度

※校費は、3期に分けて納入となります。
上記他に、教科書代(3万円程度)、ノート/パソコン代(8万円程度)、制服・体育用服装代など(男子6万円、女子8万円程度)の費用が必要です。



BATAVIA COURSE GLOBAL CLASS

「自己の確立」を目指しながら、

活躍の場を広やかな世界に求めていく人をサポートし、

共に歩いていくための

バタビアコース・グローバルクラス



大谷高等学校

OTANI SENIOR HIGH SCHOOL

〒605-0965 京都市東山区今熊野池田町12

Tel.075-541-1312 Fax.075-541-7627

www.otani.ed.jp

JR・京阪「東福寺」駅より徒歩5分
京阪「七条」駅より徒歩10分

JR・近鉄・地下鉄「京都」駅より徒歩18分
京都市バス(202,207,208,88,58系統)「今熊野」バス停より徒歩1分



大谷高等学校

OTANI SENIOR HIGH SCHOOL



Hello! My name's Frank Dutton. I am an English instructor at University of California, Davis and I've been teaching the Global English courses at Otani since January 2020. I teach every high school level, and it has been a great pleasure to watch my students not only improve their English proficiency but also hone their critical thinking skills and become leaders in an increasingly Globalized world that demands this expertise. Students are able to shine through various projects, debates, and presentations; and the classes are fast-paced, collaborative, and in English only. Students see English as something of value that they can take with them for the rest of their lives.

Frank Dutton (写真上) カリフォルニア大学デビス校

グローバル教育理念

グローバルクラスの生徒像

自己を知り、自国を理解し、自分の考えをしっかりと持ったうえで、国際的な場において相手を尊重しながら、お互いに意見のやりとりを行い、より平和な世界を築くために貢献できること。

本願 いのちを大切に

自他ともに認め合い、人の痛みをきちんと受けとめ、様々な価値観を尊重し合いながら世界平和を願う人を目指します。

関法 自分を発見する

自分の考えをしっかりと持ち、想いをことばとしての確に表現しながらも、謙虚な態度を崩さず、人の意見に耳を傾け、常に自己分析をし、良い点を評価し、悪い点を改善する振り返りができる人を目指します。

同朋 友と共に歩む

共に歩む仲間を大切に、お互いが成長するため、失敗を認め合える人を目指します。

精進 本気でやりとげる

顔を上げ、常に挑戦する気持ちを失わず、前を向いて進んでいける人を目指します。

留学プログラムをサポートします。



藤田 斉之 カリフォルニア大学デビス校 新規アカデミック構想担当責任者
国際教育センター・専門分野教育部

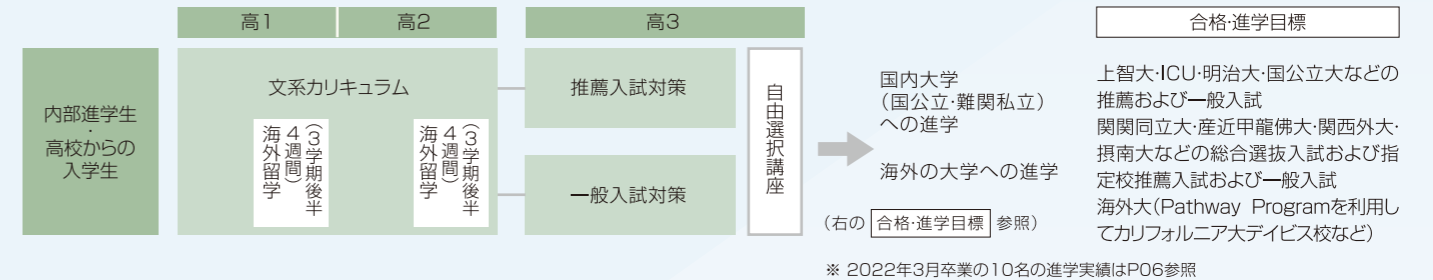
私達は今21世紀に生きています。しかしながらロシアによるウクライナ侵襲など戦争や紛争がこの現代という時代に事実として起きています。ただ単にロシアによるウクライナ侵略では片付けられない様々な世界各国の思惑や情勢の背景が絡み合っています。現在は良くも悪くもグローバルな時代です。一旦世界の何処かで何らかの事象が起こると自国だけは蚊帳の外という訳にはいきません。コロナ禍やウクライナ情勢で私達が実感として再認識したことは、世界が私達の想像を遥かに超えるスピードで地球規模で密接に関わり合っているということです。グローバルな視点で世界を見ること、これは将来どのように生きようとする日本人、ひいては世界中の人々に求められる基本的な共通の姿勢です。これからは少子高齢化により日本の国力の維持、或いは将来の発展を見据えた際、多民族・多文化の共生・共存を念頭に進んでいかなければなりません。特に次世代を担う皆さんは自分のこととして世界で起こっている現象を捉え自身の人間としての価値観を構築していく必要があります。これから益々発展していく地球を一つとみたグローバル社会において世界の繁栄を支える根本になりえるのは「質の良い教育」しかないと思えます。人は誰も生まれながらにして特定の価値観を有している訳ではありません。それぞれが育つ過程や環境で培われていく価値観がその人の人間性を決定していきます。これから益々磨きの掛かる科学技術とテクノロジーの発達によって私達の生活はより便利にそして快適になっていくでしょう。しかしながら世の中で起こる現象には必ず対極する現象が付随しています。快適さを得れば必ずそれに対極する現象も顔を出します。例えばインターネットによって私達は即情報を得る快適さを得ました、しかし一方で誰とでも24時間いつでもどこでも繋がっているという状況が当たり前になった現在社会において逆に人と常に繋がっていなければ陥る不安感や場合によっては孤立感、孤独感が世の中を複雑にしています。本来人間は一人になるダウンタイムが自己を見つめる上で必要です。これからは皆さんの時代です。これからの時代は本来人間が有している能力、いわゆるSoft Skillsと呼ばれるコミュニケーション能力、協調性、誠実さ、共感、親切心等を有することが皆さんが幸せな人生を生きていけるかどうかの鍵になります。「幸せ」の定義は人それぞれですが、私は「心の平穏」を指すと思います。その「心の平穏」は自身の内面からしか生まれてきません。ですからこれからの時代は心の内面を見つめることにより自分を成長させ、自分の価値観を構築しそれによって物事を判断する力が求められます。私は京都大谷中学高等学校の「人間教育」に非常に共感しています。皆さんが京都大谷で過ごす中高時代を通してこれからの時代をより良く生きるために必要不可欠なSoft Skillsを習得し自分自身の人生を切り開く原動力とすることを切に願っております。

国際的な場において活躍するための基礎づくりをめざす

バタビアコース・グローバルクラス

2022年度入学者 / 18名 (1クラス)

国際的な場において活躍する基礎を築くための、特色ある学びを行っています。バタビアの基礎学力定着はもちろんのこと、模擬国連活動を大きな柱として、自国だけではなく、地球規模で考える力を身に付けていくことを目指します。また3年間で2回の留学によって、語学力だけではなく、自らの手で様々な困難を切り開く力や、発信力を養っていきます。こうした経験を生かして国内進学、また海外の大学への進学を目指します。



各学年における目標

1年 鍛錬期～自国と自己を見つめる～

鍛錬期の目標は「自国を知る・発信力をつける」です。海外に出た時に痛感することのつひはかにかに自分が自国のことを知らないからです。外国の人たちに自国をきちんと説明できるだけの知識を身につけることが大変重要です。また、国際社会では意見を求められることが多く、その際にしっかりと自分の考えを述べられる準備が必要で、発信するための様々なノウハウを身につけることが大切です。環境が目まぐるしく変わる外の世界で活躍するために模擬国連や国際関係ゼミなどの授業を通して、基礎的な力を鍛錬します。そして、3学期後半には1回目の留学をむかえます。

2年 挑戦期～自分を試す～

挑戦期の目標は「留学を通して、失敗に挑む」です。1年次の留学は自分を試す第1の関門です。全く未知な環境の中で期待と不安を抱きながらの挑戦となるでしょう。新しいものに出会い、自分に向き合う経験が大切です。そしてこの1度目の留学は出来たことよりも出来ないことを痛感する経験となります。その中から次への課題を見つけ、3学期後半に行う2度目の留学において、どこまで出来るかを試してほしいと思います。

3年 結実期～将来に向けて課題の確認～

2度の留学を経て得た知識・経験を踏まえて、将来の進路を考えていきます。海外留学や総合選抜入試、推薦入試で進学を目指します。さらに一般入試にチャレンジします。視野を広く持ち、地元にとどまらずに、世界規模での進路を考えてほしいと思います。

(時間割例・3年) 現高3のもので2023年度入学生の
カリキュラムとは異なります

	月	火	水	木	金	土
朝学習						
1	英語表現II	コミ英語III	世界史B	倫理	数学II	模擬国連
2	数学II	古典	コミ英語III	英語表現II	現代文	国際関係ゼミ
3	倫理	体育	土1:2 土3:4	宗教	コミ英語III	世界史B
4	世界史B	現代文	模擬国連	国際関係ゼミ	古典	古典
5	コミ英語III	模擬国連	体育	コミ英語III	体育	
6	コミ英語III	英語表現II	LHR	世界史B	英語表現II	
7	論文	共通テスト 生物基礎	共通テスト 英語	共通テスト 政経	共通テスト 古典	

※土曜日は原則隔週授業です。 [高1] [高2]

クラス 共通必修 必修 自由選択

カリフォルニア大学 デビス校 グローバルクラス 独自授業

カリキュラム (変更の場合があります)

1年	必修・必修選択	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	(国際関係学)	数学I	数学A	生物基礎	化学基礎	体育	保健	芸術(書道)	英コミI	論理・表現I	情報I	総合探究(宗教)	模擬国連	日本文化	LHR	以上36単位
	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	1	2	5	2	2	1	2	1	1	1	
2年	必修・必修選択	言語運用	古典探究	世界史探究	公共	数学II	数学B	地学基礎	体育	保健	英コミII	論理・表現II	家庭基礎	総合探究(宗教)	模擬国連	国際関係学	LHR	国際関係学	LHR	以上36単位	
	2	2	4	2	4	2	2	2	2	1	5	2	2	1	2	2	2	2	1		
3年	必修・必修選択	文学国語	古典探究	世界史探究	政経	体育	英コミIII	論理・表現III	世界史演習	数学C	総合探究(宗教)	模擬国連	国際関係学	LHR	(以上32単位)	共通テスト 生物基礎	共通テスト 英語	共通テスト 政経	共通テスト 古典	論文	設置予定
	2	3	4	3	3	5	3	3	1	2	2	1									
全学年対象 クラス対象	選択講座	仏教学	真宗学	声明作法																	
	2	2	1																		



様々な取り組みやプログラム



カリフォルニア大学デイビス校とのプログラム(通年)

英語力を鍛えることで、留学への期待が高まります。

グローバルクラスの英語の授業は、カリフォルニア大学デイビス校 (UC Davis) の教員が担当します。All Englishの授業を通して、英語で英語を学ぶので、話す、聞く、読む、書く、さらには語彙力、文法力などの言語技能を向上させます。日々の練習や授業の復習を繰り返し、留学に備えます。



国際関係ゼミ(通年)

自分の考えを深め、人に伝える力を磨きます。

世界で起きている様々な課題(環境問題や地域紛争など)について知見をひろげることを目標としています。文献調査やフィールドワークなどによるリサーチを実施し、自分の意見をプレゼンテーションすることがゼミの中心的活動となります。また、他の生徒とのディスカッションを通して、より良い世界をつくるためのアイデアを話し合います。生徒の皆さんはゼミのための十分な事前準備が必要となります。



模擬国連(通年)

第8回模擬国連大阪大会に参加しました。

模擬国連とは、実際の国連の会場と同じように、特定のテーマについて、個人ないしグループで、どこかの国の大使となり、決議案の採択を目標とする議論を重ねる学生の活動のことです。生徒のみなさんは、必ずどこかの国の大使役が割り当てられます。普段の授業では、担当することとなった国のために、その国の事情を各自で調べます。そうした事情を踏まえ、最後には他国の大使役の生徒と交渉する必要があります。その交渉力やプレゼンテーション能力を学びます。

Ⅵ年グローバルクラスの生徒20名が、第8回模擬国連大阪大会に参加しました。これまで3年間取り組んだ模擬国連の授業の集大成となる大会になります。今回の議題は「Achieving Gender Equality and Empowering all Women and Girls (ジェンダー平等の達成とすべての女性・少女のエンパワメント)」でした。大谷高校の他にも10校、およそ150名が参加する大規模な大会となりました。スピーチや公式討論は英語で行いました。



第8回模擬国連大阪大会

【生徒の感想】

「この議題を通して学んだこと」

- 今までのテーマであった「貧困」や「コロナの対策」、「ごみ問題」とは違って、先進国だから目標を達成できているとは限らないと学んだ。日本や韓国のように発展しているものの、男女平等という面ではあまり達成できていない国も多かった。
- 世界中で、宗教・伝統・文化によって教育が受けられていなかったり差別を受けたりする女性が多くいることが自分は許せなくても、その人たちにとっては普通であり、余計なお世話となることもあることがわかって、自分たちの価値観を押し付けるのは良くないと感じた。

「あなたにとって模擬国連とは」

- 今までは日本という立場から世界を見ていたけれど、様々な地域の国の大使となって議題について考えていくことで、色々な物の考え方ができるようになった。国によって足りていないことや、十分にあるものは違うので、何を誰に求めるのかを考えるのが大会ごとに異なって面白かった。模擬国連は、大谷だけでなく他校の人との交流をする機会が多い。他校の人は同じような考えを持っている人もいれば、自分の中では想像もつかなかったアイデアを持っている人もいた。お互いに異なるバックグラウンドがあるのでそれを尊重しながら妥協点を見つけていくのが、ときに難しいこともあった。
- 模擬国連は自分の微力さを知るきっかけとなった。模擬国連活動に取り組んだことで、国際問題について自分の意見を持ち、解決策を考えることができるようになったが、自分がどれだけ考えたとしても、実際には問題の解決には繋がらず、現状は変わらないことに気付いた。しかし、国際問題の解決がどれだけ難しいかを知ったことは、自分にとって大切な財産となった。私は自分の微力さに落胆するのではなく、どれだけ小さなことでも、社会のための行動を続けていこうと思う。

日本文化(1年次)

祇園祭、鷹山保存会のお手伝いをしました。

外国との交流を行ううえで、日本のことをより深く知る必要があるという考えから、グローバルクラスでは「日本文化」の授業を設置しています。また、大谷高校が京都の学校である強みも生かして、授業では祇園祭、着付け、京料理、伝統工芸、寺社仏閣などについても学習します。祇園祭に関しては、今年(2022年)、196年ぶりに復活を遂げ、7月24日の後祭で巡行した「鷹山」の保存会のみなさんにお世話になっています。これまで鷹山保存会のみなさんに学校に来ていただき、祇園祭についての講義やお囃子の演奏をしていただきました。さらに、祇園祭期間には、生徒たちが浴衣を着て、厄除けの「ちまき」などをお客様に授ける手伝いをしました。



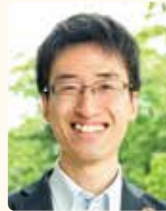
クラス開設4年目ようやく留学実施

グローバルクラスでは1年次と2年次の3学期にそれぞれ約1か月、計2か月の留学をおこないます。研修先は、本校が提携しているカリフォルニア大学デイビス校(UC Davis)です。UC Davisの国際教育センター監修のもと、本校にあった独自のプログラムを作成していただきます。10代での最初の留学は、色々な経験ができたということで終わってしまいがちです。2度目がないと、そこでわかったこと—いかに英語ができないか、自分は一体何者かなど—をどう生かし、国際的な場面でどう対処するかを試すことがないまま卒業することになります。2年次は1度目の留学で経験したことから、次に向けて何をしなければよいかを見つける期間となります。そして2年次の春の留学において、やり残したことを、挑戦したいことを実現していきます。

2020年度はコロナ禍のためオンラインでSDGsなどをテーマとしたプログラムを受講しました。2021年度にようやく、実際にアメリカに渡航することができました。UC Davisでは、実践的な英語力を訓練します。プレゼンテーションなど、発表が中心になります。課題をこなすのは大変ですが、それだけ力がつきます。留学中はホームステイです。約1か月、ホストファミリーと過ごす中で実践的な英語力の向上はもちろん、異文化に対する理解を深めます。クリスチアンのホストファミリーであれば日曜日に一緒に教会を訪れます。ベジタリアンのホストファミリーであれば普段と異なる食生活を体験できます。学校で学ぶ知識はもちろん大切ですが、このように肌で異文化に触れることは、若い人にとって重要な経験になります。また、現地の高校生と「JAPAN DAY」を協力して開催し、日本文化を通じた交流も行いました。

留学は楽しいことばかりではなく、文化の違いに戸惑うこともあるでしょう。安全圏(Comfort Zone)を離れることは、不快を伴います。しかし、そのために

わざわざ遠く離れた外国へ行くのです。そのような経験と向き合い、留学から帰ってきた子どもたちの顔つきはどこか一回り大人になったようにみえます。



舟木 祐人 教諭 社会科
バタビア・グローバルクラス高3担任
茶道部顧問

自分のしたいことがのびのびとできる、それがグローバルクラスです。韓国語や絵のデザイン、宗教に興味がある人、海外大学に進学したい人など、様々な進路を考えている人がいます。自分の夢をちゃんと持ち、それに向かって具体的な目標を定められるような環境が、グローバルクラスにはあると感じました。

また、日本の文化を体験する「日本文化」という授業があります。外国人の方と話す上で相手の文化ばかり吸収するのではなく、自ら日本の文化を発信するということはとても大事で、実際、留学に行った際に相手と話す上でものすごく役に立ちました。留学するにあたっては、英語を話すコツをネイティブの先生が教えてくれたので自信を持って交流することができました。僕達が行ったDAVIS(デイビス)という市は、のどかで安全な街でした。街の人達はとても優しく挨拶をしてくれたり、若者は初対面なのにバスケットをしよう!と誘ってくるなど、文化の違いに何度も驚かされました。授業は毎日お昼すぎまでで、ネイティブの先生が教えてくださり、日本では受けられないような生徒主体の授業が展開されました。外国語で自分の意見を発信していく難しさを体感しつつも、先生やアシスタントの大学生の皆さんのおかげで成長をすることができました。また現地では友達をたくさん作ることができ、ともにご飯を食べに行ったり、毎日のように遊んだりしているうちに自分の英語力がだんだん上がっていることが実感できました。また、短期留学なので学校の勉強には支障が出ません。むしろ、留学に行く前と行ったあとでは英語力がすごく変化していたし、自分の中で英語を勉強するモチベーションに繋がったことが、何よりも自分へのお土産となりました。



留学中のなにげない生活が英語力の向上と、世界中の人への想いへと繋がりました。

藤田 佳吾
バタビア・グローバルクラス高3 GSI部
(京都・大住中)

今年初めて卒業生を出しました

メッセージ

英語を学んだことが将来の夢につながった。



同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科
増田 温 2022年 3月 バタビア・グローバルクラス卒 卓球部 (大谷中・内部進学)

中学で初めて英語を学び、日本語以外の言語で読み書きできることに感動しました。さらに、オーラルコミュニケーションの授業を通して、もっと英語を使った学びを深めたいと思うようになり、新設のグローバルクラスに進学することを決意しました。英語の授業では英語で書かれた文章を読み、ネイティブの先生と会話することで英語力が向上したのはもちろん、国をまたいでコミュニケーションすることの楽しさを強く実感しました。中学生の時はあまり意識することがなかった「世界」についても興味を持つようになり、さまざまな国際問題についてクラスで話し合い、模擬国連活動を通して客観的に考える力、伝える力が身についたと思います。高校1年のフィールドワークでは、フェアトレード商品を扱っているお店のインタビューを経験し、児童労働について関心を持ち始めました。将来は発展途上国での貿易にフォーカスした活動をしたいと思っています。そのために必要なスキルをさらに磨ける大学が私の目標となり担任の先生に支えられながら合格することができました。

グローバル生の3年間が私の大切な宝物。

グローバルクラスの大きな魅力は2回の留学だと思っています。しかし一期生の私の学年は、新型コロナウイルスの影響で一度も留学に行けませんでした。とても残念でしたが、それでもたくさんの良い経験ができました。毎日All Englishの授業を受けたことで英語力が伸び、英検準1級に合格できました。生の英語に触れたおかげで、特にリスニング力がアップしました。また、中学生のころまでは人前で話すことが本当に苦手だったのですが、国際関係ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が多く、人前でも自信を持って話せるようになりました。日本文化の授業での取り組みは、どれも初めての体験で貴重な経験ばかりでした。特に長期間取り組んだ祇園祭を通して、歴史などを学ぶだけでなく、実際にお雛子を聴いたり、売り子を体験したりすることもできました。進路選択のときにはこうした経験がとても役に立ち、これからの人生にも大きく関わってくると思います。グローバルクラス生として過ごした3年間は私の宝物です。



関西学院大学 国際学部 国際学科
松田 叶葉 2022年 3月 バタビア・グローバルクラス卒 (滋賀・高穂中)

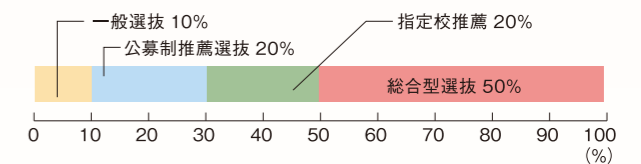
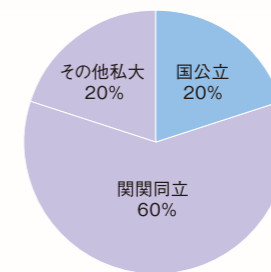


グローバルクラスの担任として「異なる草木が咲き乱れる花園」のようなクラスを育てたいと思っています。型に当てはめた教育は効率が良いのかもしれませんが、世界的な視点に立つと多様性が当たり前です。今こそ、優しさと話し合いの姿勢で、世界が協力して非常事態に立ち向かわなければいけないのに、同じクラスの人とすら話せない、廊下で毎日すれ違う人と「気まずくて」話そうとしない人もいます。今求められているのは、人々の間の壁を打ち破って、個性を発揮しながら分け隔てなく仲間と関係が作れる環境です。そのように願うからこそ、グローバルクラスに向いていると思います。

露伴 クルトツティ 教諭 国語科 バタビア・グローバルクラス高1担任 GSI部顧問



進路実績/卒業生10名



国立大学	人数
静岡文化芸術大学	1
大阪教育大学	1
計2大学	2名

私立大学	人数
関西学院大学	2
京都芸術大学	1
京都女子大学	1
同志社大学	2
立命館大学	2
計5大学	8名